

（午後1時45分 再開）

○議長（小林 弘君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番10、17番 小西君。

〔17番（小西政宏君）登壇〕

○17番（小西政宏君）それでは、議長にお話しを頂きましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

今回は1項目通告をさせていただいております。本市を大阪・関西万博から世界に発信してはどうかと、そういうことです。

2025年にお隣の大阪府から、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに大阪・関西万博が開催されます。万博は世界中からたくさんの人やモノが集まるイベントで、地球規模の様々な課題に取り組むために、世界各地から英知が集まる場であり、万博には人・モノを呼び寄せる求心力と世界への発信力があります。

私は大阪・関西万博を活用した本市の魅力を世界へ発信する絶好の機会と考えており、質問いたします。

シティープロモーションの観点で、万博に本市として全力で取り組んでいく第一歩として、まずは大阪・関西万博2025共創パートナーに自治体として登録する必要性を感じております。その点について見解をお伺いいたします。

以上です。

○議長（小林 弘君）17番 小西君の質問、本市を大阪・関西万博から世界に発信に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（北岡慶久君）登壇〕

○経済推進部長（北岡慶久君）本市を大阪・関西万博から世界に発信についてお答えします。

大阪・関西万博は、2025年4月13日から10月13日までの184日間、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、大阪夢洲にて開催されます。国連が掲げるSDGs達成の目標年である2030年まで残り5年となる2025年は、実現に向けた取組を加速する極めて重要な年と位置づけ、2030年までに達成するためのプラットフォームとして持続可能な社会の体現をめざしています。

議員おただしの共創パートナーとは、参加型万博としての取組である「TEAM EXPO 2025」プログラムの一つで、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現し、SDGsの達成に貢献するため、企業や教育・学術・研究機関、国・政府関係機関、自治体、各種団体等の様々な参加者が主体となって、理想とした未来社会を共に築き上げていくことをめざすものです。このプログラムにおいて、各主体がデザインする未来社会の実現に向けて、自らが主体となって行動するチームを募集する共創チャレンジと、プログラムの趣旨に賛同し、協会と連携して多様な共創チャレンジの創出及び支援や共創チャレンジのPR及び情報発信を担う団体を募集する共創パートナーがあります。

このうち、共創パートナーの具体的な活動につきましては、共創チャレンジの立ち上げ、運営、事業化を支援する活動や、持続可能な事業モデル構築支援に関する活動、実証・導入支援に関する活動、社会の認知度向上や参加者増加につながる活動が募集要項に例示さ

れており、自治体においては実証フィールドの提供等が期待されているところです。

本市としましては、この「TEAM EXPO 2025」プログラムは、SDGsの実現に有効な手段の一つであり、本市の先進的な活動を広くプロモーションできる契機であると考えており、共創パートナーへの登録をまずは行い、その後、本市がめざす未来像や提供できる資源、創出・支援したい共創チャレンジ等を具体化するため、先行的な取組として紀州へら竿やパイル織物、高野山麓精進野菜など、SDGsの趣旨に沿った本市独自のエッセンスを関連団体や企業、教育機関などとの関係を深化しながら、プログラムを有効活用していきたいと考えています。

なお、他分野においても参加可能な活動テーマの検討など、今後の取組の幅を広げていければと考えています。

○議長（小林 弘君）17番 小西君、再質問ありますか。

17番 小西君。

○17番（小西政宏君）答弁ありがとうございました。「共創パートナー」として登録をしていただくと、非常に前向きに答弁を頂きましてうれしく思っています。

今回、なぜ万博のことを取り上げているのかということですが、ご縁があって万博協会の方々とは何度かお会いさせていただく中で、関西または日本のいいもの何かないかなというふうなそんな話を、ほかにもいろいろしてきたわけでありました。

もう一方、私自身が思うこともありまして、もちろん今、コロナ禍の中で、様々現場で苦しんでいらっしゃる方もたくさんいます。その方々に対してしっかり支援、寄り添っていく、こういったことも行政の仕事としてももちろん当然のことではありますけれども、アフターコロナ、いわゆるコロナ後と言われるときに、

そこからまた取り組んでいくというよりかは、そのときに向けて今、基礎自治体もある意味投資をしていくというか、いうふうな方策も今から手を打っていかなあかん、これは同時に進行していかなあかんとは私はそう思っています。ですから、それこそ今コロナ禍でこういう閉塞感がありますけれども、2025年の万博、関西、まさしく隣で行われるわけですから、これは本当に将来の光があるなど僕はそういうふうな位置づけを思っています。

ここで一点、繰り返しもなるかもしれませんが、確認をさせていただきたいことは、今回万博をめざすにあたって大事なことは、それはうれしいんですけど、議員の提案があったから取りあえず登録しますわ。もちろんうれしいけれども、大事なことは言われたからするではなくて、市として本気で万博に参画をしていくというような、いわゆる旗を振ってもらうというか、その覚悟、思い、そういったところというのは、まず僕は確認というか、絶対必要なことだと思っています。ですから、市としてこの万博に関わっていく。もちろん本市の発展のためもあります。そういったところ、必要性であるとか、どういふふうな認識を持たれるのか、まず一点確認させてください。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）日本での万国博覧会の開催というのは、最近では2005年の愛知万博、愛・地球博が開催されました。2025年の大阪・関西万博は20年ぶりの開催となります。また、近畿での開催は1990年の花の万博、花博以来の開催となります。当時、私も職員として花博の会場に行かせていただきましたが、橋本市から花壇が出展されているということ、非常に市民の方から喜んでいただいたという、そういった記憶を持っています。30年ぶりの近隣の開催で、本市を世界規模で

知っていただけるこのイベントの開催というのは、本市をプロモーションするための絶好の機会であるというふうに思っています。当然のことながら、本市としても積極的に関わっていきべきであると考えています。

○議長（小林 弘君）17番 小西君。

○17番（小西政宏君）非常に力強く答弁いただきました。ありがとうございます。

そしたら、内容の確認のほうをさせていただきたいと思います。冒頭、共創パートナーと共創チャレンジとご説明いただきました。これは多分説明しようとするとかかなり複雑で、僕自身しゃべらせてもうたら長くなるので、僕のほうからは割愛をさせていただいて、先ほど答弁を頂いた内容に沿って聞いていきたいなと思います。

まずはこの共創パートナー、登録いただくと答弁いただきましたけども、本市がどのような取組を行っていくと考えているのか、もしあればお答えいただきたいと思います。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）壇上での答弁でもさせていただきましたが、共創パートナーとして万博に参加いただける方や団体の支援等について活動していくという、そういう考えであります。ただ、漠然と支援だけというのは広がっていきません。例えば、高野山麓精進野菜の取組というのは、低化学肥料・低農薬の取組で、地域で使われなくなった資材を野菜づくりのための肥料に活用したりと、SDGsや低炭素化社会の理念に合致しています。ひいては、大阪万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」のテーマにも合致した事業であるというふうに確信しています。本市が万博に合致した事業を行い発信することで、市民の方は本当に万博への関わり方や方向性がより具体的に想像できるのではないかと考えます。

このように、市が行っている事業を万博の理念とすり合わせて、合致する事業については関係者を共創チャレンジ事業に参加いただくような取組を進めていきたいというふうに考えます。共創パートナーについては、万博のロゴマークが使用できるということがあります。ロゴマークについても、のぼり旗やチラシなどで各所に活用できるというふうに考えています。

○議長（小林 弘君）17番 小西君。

○17番（小西政宏君）ありがとうございます。今のお話を聞かせていただいて思うこともありまして、それこそ万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」、もちろん健康であるとか、一方ではSDGs、そういったところも本当にテーマと理念として掲げられております。今、言っていたように、高野山麓精進野菜というのはそういったテーマには非常に即しているなということが分かりました。

一方で、万博協会の方々とお話をしていたときに、大阪万博やけれども、大阪・関西万博なんだと。これから行っていかなくちやいかんことは、日本全国にあるいいもの、もちろんテーマに沿ったものです。いいものを大阪で一つショーケースにして、日本のいいものをショーケースにして大阪から世界に発信するんだというふうなことをおっしゃっていただきました。ですから、そんな単純にはいかないとは思いますが、この趣旨に合ったものが今、簡単に例えば出てきていただいた中でいうと山麓野菜があったと思います。こういったものを趣旨合わしながら、趣旨が合ったという中で、今後、具体的にどこをめぐらしていくのかというふうなところを、もし関わり方といいますか、そんなんやったら、考えていることがあるんやったら、お答えいただきたいと思います。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）高野山麓精進野菜の取組ですが、平成31年3月1日に設立しました。正確には、高野山麓農産物産地化協議会というふうに言います。高野山麓精進野菜の産地化、それからブランド化の重点的な取組の期間を、当時から2025年というふうにしていました。その際には、2025年には大阪万博の開催が決定していたため、漠然とした目標として何らかの形でこの大阪万博に関わっていきたいというのを協議会の中で話し合われたというような経過があります。

今回、共創パートナーのご提案ですが、当事業にとってはまさに渡りに船と考えており、できれば高野山麓精進野菜を大阪万博に出展できればと考えています。取組としては、まだまだこれからブラッシュアップする必要がありますが、万博への出展というのは本市農家はもとより、関係者の機運を高めるということをすごく認識しております。

17番議員については、関係者とのつながりがあるというようなこともお聞きしました。この取組に対して関係機関などをぜひご紹介いただいて、本市の活動にご協力等を頂きたいと、そんなふうにお願ひしたいと思ひます。

○議長（小林 弘君）17番 小西君。

○17番（小西政宏君）ありがとうございます。もちろん2025年であって、その野菜についてもブラッシュアップしながらということですから、どういった形でって具体的なところ、最終ゴールまではちょっとなかなか見えにくいところもありますけれども、ただ、今お話を聞かせていただきましたように、もともとこの野菜をやる際に2025年までと決めて、何らかの形で大阪万博に関わっていただきたいと協議会でお話をさせていただいたと。非常に頼もしいですし、ぜひとも応援していききたい、そういうふうには思っています。

それはそれで一つのゴールとして僕はすば

らしい取組だなというふうに思うわけですが、ただ、万博というのは2025年の5月から4月か今、忘れましたが、約180日間行われるわけです。大事なことは、万博自体も実は手段が変わってくるんじゃないかなというふうに思っています。もちろん先ほど言うていただいたように野菜を出展するって、夢があつていいです。それはそれで一つのゴールとして頑張りたい。けれども、万博はこの180日何がして終わるわけですから、その先に向けてもどうこの機会を行政として、また市民と生かしていくのかって、そういったところを考えていくのも本質的に私は非常に大事やし、今からビジョンを持って取り組んでいていただきたいと私は願つとるわけです。ですから、その先のことまで考えていくべきやとした上で再度聞きます。

市はこの取組を通して何をゴールとして挑んでいくのか、そんなところをお聞かせいただけたらと思ひます。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）万博への参加、出展というのは、やはりあくまで通過点であると考えています。最終のゴールというのは、共創パートナーとして活動した結果、他の共創パートナーや共創チャレンジの様々な事業所や自治体とつながりができるというふうに思っています。万博が終了した後の様々な場面で、いろんな取組に対して情報共有や事業連携などの可能性があるし、それをつないでいかなければならないと、そんなふうには考えています。

○議長（小林 弘君）17番 小西君。

○17番（小西政宏君）ありがとうございます。その先も考えていただいていると。様々な事業連携ですか、今お答えしていただきました。やっぱり様々な知見を持つてはる方、目的、ゴールを持つて活動している方、

(午後 2 時 4 分 休憩)

こういった皆さんがやっぱり一緒に何かに向けて活動していく、人と人が汗を流しながらじゃないですけど一緒に活動していくって、やっぱりこれって本質的に非常に重要なことだと思います。その中でまた新たな発想であるとか、アイデアであるとか、様々生まれていくと私も聞かせていただいて今思いました。ですから、そういうふうにもたご尽力を、ちょっと先の話ですけど、とはいえ、そこをめざして一步一步やっていっていただきたいなと思います。

実際、それをしていくにあたって、ほかにもいっぱい聞きたいことがあるんですけども、今聞いていってもあれかなと思う中で要望に代えておきたいなと思うんですけど、これから共創パートナーとしてフィールドの提供であるとか、様々民間企業もいっぱい登録していただいていますから、様々なセッション出てくると思います。その中で様々担当課と協議したりとかいっぱい出てくると思うんですけど、そこで危惧することは、やっぱり市として速やかにスピード感を持って意思決定を進めていくと。協議を、調整を早いことしていくというのは、期限が決められている中で民間と一緒にやっていく中では必要不可欠だと僕は思っています。

そしたら、例えば万博担当の役を持つ職員が必要であるとか、いわゆる機構改革とかというのももしかしたら必要になってくるかもしれないので、そのゴールをしっかりとめざした上でその点、機構改革等々も一度考えていただきたいと。そういったことを今回要望させていただいて、これで答弁は結構です。それで終わりたいと思います。

以上です。ありがとうございました。

○議長(小林 弘君) 17番 小西君の一般質問は終わりました。

この際、2時15分まで休憩をいたします。